



中小工業の国際展開と地域経済の持続的発展に関する歴史的研究

経済学部 経済学科 准教授 水野 敦洋

研究シーズの概要

近現代日本の産業発展の歴史について、中小工業部門に着目して研究を行っています。とくに「消費雑貨」として括られる多様な製品群（例えばマッチなど）を検討対象としています。

それらは地理的に狭い範囲に集中した零細な製造業者によって生産されることが多く、特定製品の生産地域としての「産地」が全国各地に形成されました。とりわけ、幕末開港以降の輸出貿易を通じて、海外市場の販路開拓に成功した産地は大きく発展を遂げました。なかには戦前期においてすでに海外生産に乗り出す製造業者も存在しました。このように、一国に留まらない動きを見せる中小工業の発展史を、グローバルな視角から描き出すことが一つ目の研究課題です。

一方、ここで改めて国内に目を向けると、生産拠点の海外移転は「国内産業の空洞化」につながるおそれがあります。とくに1980年代以降の円高不況や新興国の台頭を受けた海外生産の動きは顕著であり、一方では「グローバル経済化」が進んだものの、他方では「地域経済の地盤沈下」につながりました。産地としての地域経済の持続的発展を考えると、製品の差別化や高付加価値化、あるいは産業転換の重要性はこれまでも認識されてきましたが、その実像はいまだ自明ではない古くて新しい問題といえます。こうした今日的な問題も念頭に置きつつ、地域経済の持続的発展において中小工業が果たしてきた役割を歴史的に描き出すことが二つ目の研究課題です。



多様なマッチラベル。戦前期のマッチ工業は、日本人製造業者と中国人商人やインド人商人たちが手を組み、アジア向けを中心とする輸出主導の発展を遂げました。

画像出典：『横寸商標史』（香川大学図書館神原文庫所蔵）を加工。

【利用が見込まれる分野】 社史、自治体史

研究者プロフィール

水野 敦洋 / ミズノ アツヒロ



メールアドレス	mizuno.atsuhiro@kagawa-u.ac.jp
所属学部等	経済学部 経済学科
職位	准教授
学位	修士（経済学）
研究キーワード	経済史、経営史、産業史、地域史、中小企業、地場産業

問い合わせ番号：EC-22-006

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで
 直通電話番号：087-832-1672 メールアドレス：ccip-c@kagawa-u.ac.jp